

「夏場の火災に」にご注意を！！

まだ梅雨明けしておりませんが高温の日が続き、昨年より暑い夏になると予想されています。この時期、気温や湿度が高く熱中症に対して様々な対策を取られているのではないのでしょうか。他の消防本部ではございますが、熱中症対策により火災や火傷に至った事案が発生しました。事例を紹介しますので火災予防を心がけましょう。

1 ハンディファン（携帯用扇風機）による火災

ハンディファンには、リチウムイオンバッテリーが内蔵されているものがあり、充電することで繰り返し使用できるため、広く普及されています。リチウムイオンバッテリーは、利便性がある反面、衝撃、高温や水濡れに弱く、発火や爆発する恐れがあります。

対策⇒使用する際は、ストラップ等で落下防止処置をとる、充電時間を守り、直射日光など、高温の場所での使用は避けるなどの対策を取りましょう。

2 制汗スプレー等による火災

制汗スプレー、殺虫剤や虫よけスプレーなどのエアゾール製品には可燃性ガス（LPG）が含まれています。制汗スプレーを使用直後にライターを使用しタバコを吸う、虫よけスプレーを使用直後に花火で遊ぶ、これらは着衣着火する恐れがあります。

対策⇒可燃性ガス（LPG）を含むスプレーを使用する際は、身体表面や空間に可燃性ガスが滞留する恐れがあるため、火気の取扱いにはご注意ください。

3 ファン付き作業服が起因する火災

ファン付作業服を着用し溶接作業中、発生した火花がファンから入り込み大火傷した。

対策⇒吸気ファンに異物の混入を防止する金属製専用フィルターの取付けやファン付作業服の下に着る衣類については難燃性のものを着るようにしましょう。

モバイルバッテリーなどのリチウムイオンバッテリーを使用している製品は熱の影響で異常な反応が起きて破裂・発火するおそれがあります。モバイルバッテリー、スプレー缶などの高温下での使用や保管を禁止している製品は高温下（車内）に放置しないでください。

また、車内にペットボトルを放置するのも危険です。ペットボトルを放置しておくと収れん火災を引き起す原因になります。

※収れん火災とは

水入りのペットボトルや水晶玉など凸レンズ状の透明な物体、あるいは凹面鏡状の反射物によって、太陽光が一点に集中し、可燃物を発火させることによって起こります。